

令和4年度 英語教育実施状況調査結果概要について

1 中学生の英語力に関すること

【現状】

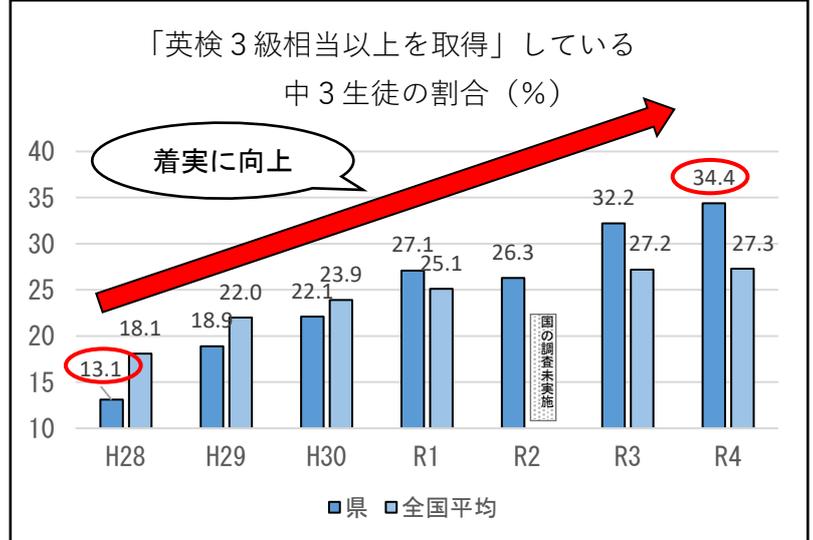
○ 中3生徒の英検3級相当以上取得率 ※ R5年度までの目標値 40%

県平均	34.4% (R3比 +2.2ポイント)
全国平均	27.3% (R3比 +0.1ポイント)

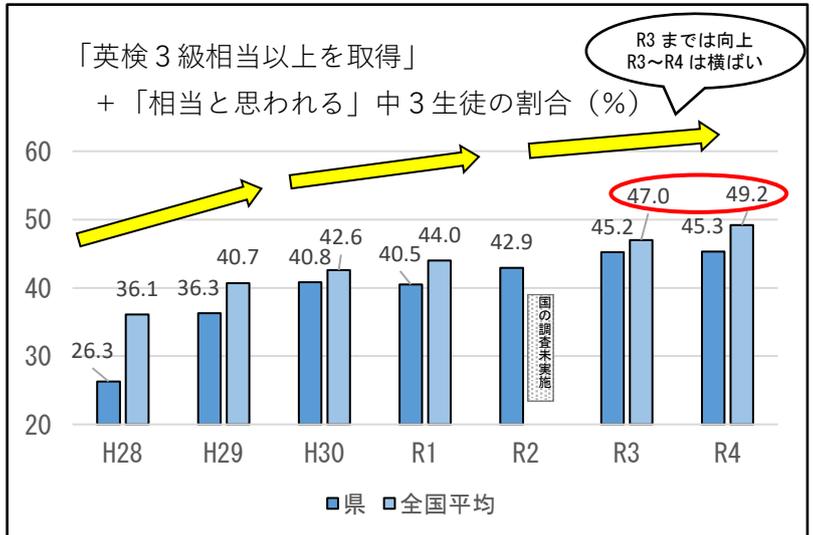
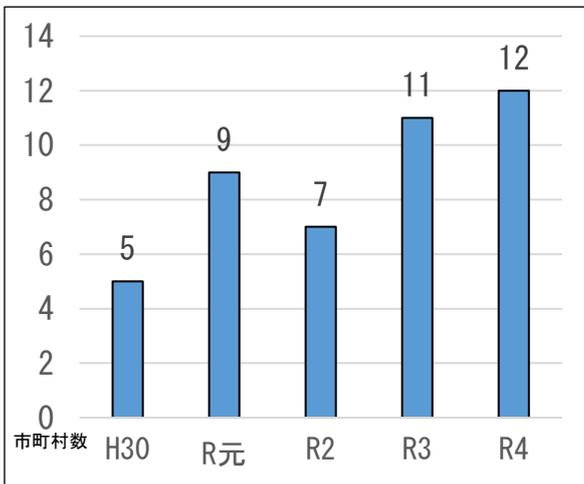
【R4管内等ごとの状況】

管内等	平均取得率	令和4年度目標値(36%)を達成した市町村数
宇城(3市町)	50.4%	1
玉名(6市町)	27.6%	2
山鹿(1市)	26.8%	0
菊池(4市町)	37.9%	3
阿蘇(7市町村)	42.3%	7
上益城(5市町)	30.1%	1
八代(2市町)	21.3%	0
芦北(3市町)	34.7%	1
球磨(10市町村)	32.0%	4
天草(3市町)	29.9%	0

【経年変化の状況】



【R5目標値(取得率40%)を上回った市町村数の推移】



【成果】○ 「取得」の割合は、H28年度から+21.3ポイントとなり、年々着実に向上してきている。

【課題】○ 「取得+相当」の割合は45.3%でR3結果とほぼ変わらず、全体的な英語力の向上という点では課題がみられる。

【対策】○ 生徒の英語力向上を図るため、英検等の結果において成果を上げている学校や市町村の取組例を県教育委員会HP等で紹介し、好事例の普及・啓発を図る。

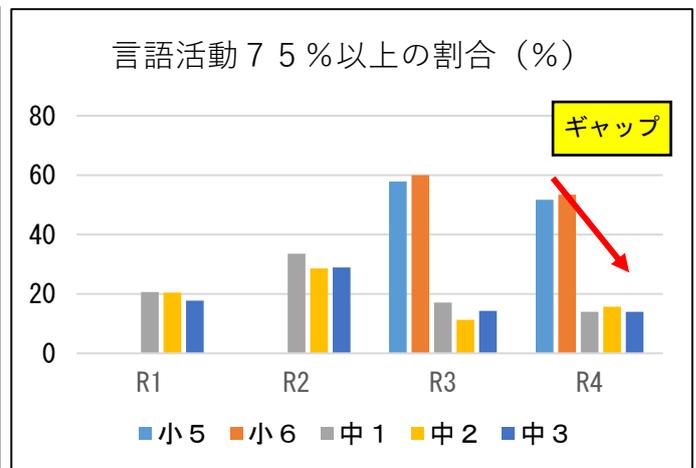
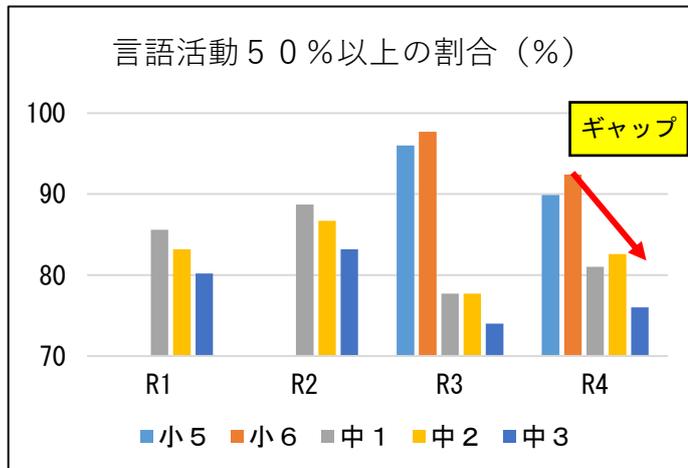
○ 指導力の高い教員の指導方法等を県教育委員会HPや研修等で紹介し、英語教員全体の指導力の向上を図る。

2 英語の授業における言語活動の充実

- 【現状】○ 小中ともに8割程度以上の学校が授業の50%以上言語活動を実施している。
○ 中学校における言語活動の割合は、小学校よりも大きく下降している。

※ 言語活動：「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の活動

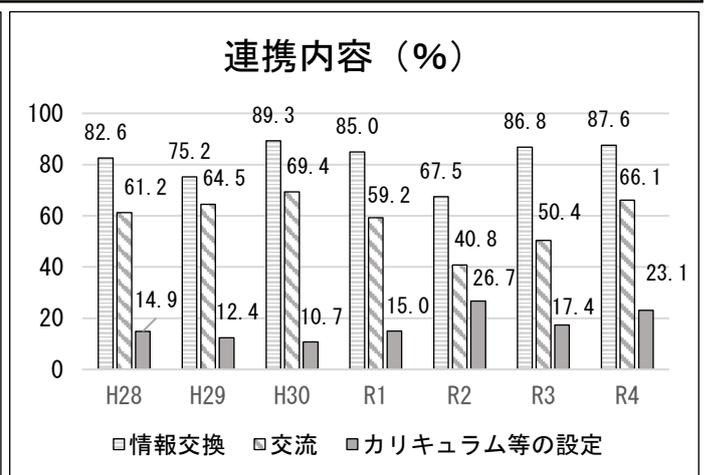
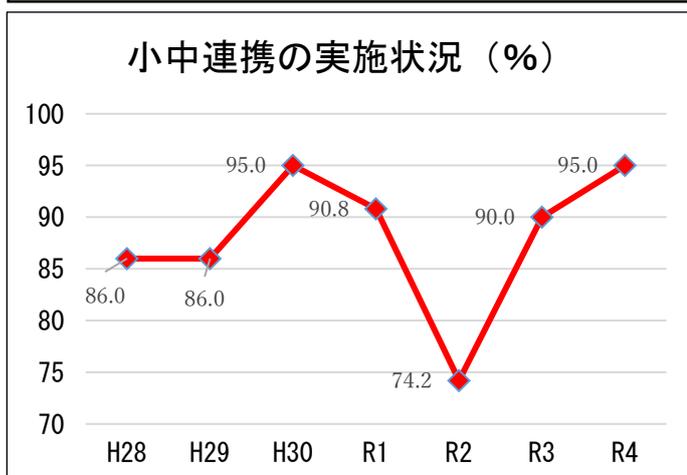
【経年変化の状況】



- 【成果】○ 言語活動50%以上が小学校では約9割、中学校では約8割を占めており、言語活動を通じた指導を行おうとする意識がみられる。
- 【課題】○ 小6から中1にかけて言語活動の割合が減少しており、中1ギャップの一因と考えられる。
○ 学習指導要領の全面实施となった令和3年度以降、中学校における言語活動の割合が減少しており、教科書の内容や指導事項の増加とともに言語活動が減少したと推察される。
- 【対策】○ 研修や県教育委員会HP等を活用し、言語活動を通じた指導の具体例を示すなどして、指導の充実を図っていく。

3 英語教育に関する小中連携の実施状況（中学校回答）

- 【現状】○ 約95%の中学校が「実施した」と回答。
○ 85%以上が情報交換を行っている。

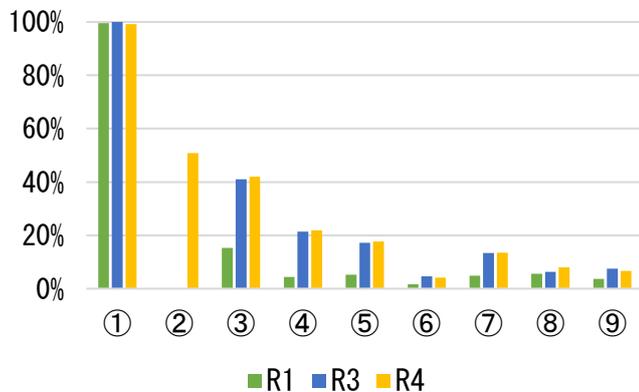


- 【成果】○ コロナ禍で減少していた小中連携を実施した学校の割合が、増加に転じている。
- 【課題】○ 情報交換を行っている学校の割合は高いが、「小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定」の状況に課題がある。
- 【対策】○ 小中連携したCAN-DOリストの作成及び活用等について、研修等で具体例を示していく。
○ 特に、小学校とのつながりを意識しながら、中1から中2前半までの指導に重点を置いた取組の充実を図っていく。

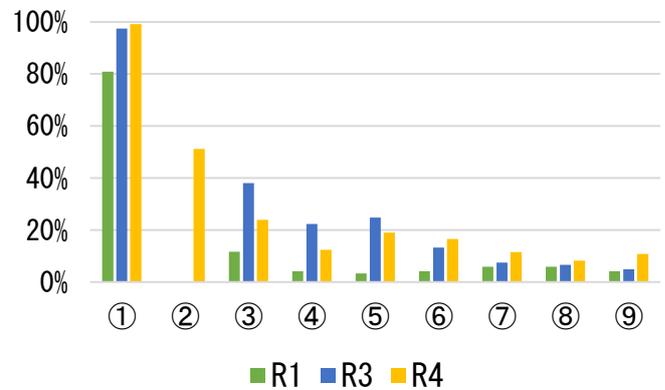
4 英語の授業における ICT 機器の活用状況

- 【現状】 ○ 教師のデジタル教材等の活用については、ほぼ100%である。
○ 児童生徒一人一台端末の活用を50%以上の授業で実施した割合は5割程度。

ICTの活用状況（小学校）



ICTの活用状況（中学校）



- ① 教師がデジタル教材等を活用した授業
- ② 児童生徒が1人1台端末等を活用
- ③ 児童生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動
- ④ 児童生徒による発表や発音などの録音・録画
- ⑤ 児童生徒がキーボード入力等で書く活動
- ⑥ 児童生徒が電子メールやSNSを用いたやり取りをする活動
- ⑦ 児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動
- ⑧ 遠隔地の教師やALT等とチーム・ティーチングを行う活動

【成果】 ○ 教師によるデジタル教材の活用については、定着している。

【課題】 ○ 交流や遠隔交流での活用の割合は小中学校ともに2割にも満たない状況であり、学校間や遠隔地及び海外等の児童生徒や英語話者との実際のコミュニケーションの機会の設定などによる活用が不足している。

【対策】 ○ オンラインを活用した交流や遠隔授業等の実施、学習者用デジタル教材の効果的活用などによる言語活動の充実に向けたICTの効果的活用について好事例等を収集、発信し活用を促進する。

5 英語教育の充実に向けた市町村における主な取組例について

外部検定試験の受験率及び取得率の向上に向けて 各市町村で様々な取組が実施されています

<補助等に関すること>

- 英検・GTEC等外部検定試験 全額補助
 - ・小学5年生～中学3年生のうち補助回数、対象学年を各市町村で設定
 - ・各自の英語力にあわせた級を生徒全員が受験
 - ・小6で英検 IBA に挑戦
- 英検等外部検定試験 一部補助
 - ・保護者負担が定額となるように町が補助
- その他
 - ・補助制度を保護者に周知（学期ごとにチラシを配付）

<教員の指導力向上に関すること>

- 担当者会、研修会の開催
 - ・市内全中学校で英語教育に係る共通実践事項を確認
 - ・小中英語担当教員による合同研修会の実施
 - ・「英語教育の充実」を町の重点取組に設定
- 授業力向上に向けた取組
 - ・市町教育委員会指導員による若手教員を対象とした授業訪問
 - ・町内の小中学校に学期ごとに英語の授業研究会を位置付け、公開授業を実施
 - ・市教育委員会の英語アドバイザーによる授業参観及び指導・助言
 - ・中学校英語担当教員が同中学校区内の小6を対象に乗り入れ授業を実施

<児童生徒の英語力向上に関すること>

- 基礎的・基本的事項の定着
 - ・市内全中学校で共通して、中1に学期1回の単語テスト、中2に年2回の文法テストを実施
- 言語活動の充実
 - ・オンラインによるネイティブ講師とのマンツーマン英会話レッスンを年に数回実施
 - ・ALT や地域の方の協力により保育園児や小学校低学年への指導を実施
- 家庭学習等の充実
 - ・地域未来塾における学習会の実施
 - ・EdTech 導入補助金事業によるオンライン英語学習アプリの導入
 - ・夏季休業中に ALT を学校に派遣し、受験対策（スピーキング対策）を実施

6 中3生徒のCEFR A1レベル（英検3級相当）以上の取得率が、県の令和5年度目標値（40%）を上回った市町村と主な取組内容

宇城市

- ・小学5年生から中学3年生を対象に、GTEC4技能検定(ベネッセ)に係る受験料について1回分を全額補助
- ・文部科学省教育課程特例校として小学1・2年生の「英語活動」を週に1時間(年間35時間)実施

和水町

- ・中学1年生から中学3年生を対象に、英検に係る受験料について1回分を2/3補助
- ・年度当初に町の校長会において英検受験に係る制度の説明を行い、検定料の助成があることを周知

菊陽町

- ・小学6年生から中学3年生を対象に、英検（小学生は英検 Jr.）に係る受験料について1回分を全額補助
- ・町の重点取組に英語教育の充実を掲げ、教師の指導力向上のために外国語指導担当者会議を年4回実施

南小国町

- ・中学1年生から中学3年生を対象に、英検に係る受験料について2回分を全額補助（町が単独で補助）
- ・ALTが保育園や小学校低学年を訪問し、年中・年長児から外国語に触れる機会を設定

小国町

- ・小学5年生から中学3年生を対象に、英検（小学生は英検 Jr.）に係る受験料について1回分を全額補助
- ・日頃より英語によるやり取りを重視した授業を実施。また、文部科学省教育課程特例校として、ALTを効果的に活用した「英会話」を週に1時間実施

産山村

- ・義務教育学校3年生～9年生を対象に、英検（3年生～5年生は英検 Jr.）に係る受験料について3～6年生は1回分を、7～9年生は3回分を補助
- ・タイとの交換留学制度(ヒゴタイ交流)を実施し、毎年、相互(7月訪タイ、9月来日)に生徒(7～9年生4名)及び教諭を3週間派遣
- ・1～9年生の教育課程にヒゴタイ・イングリッシュ（「英会話科」「英語科」）を位置付け

高森町

- ・小学5年生から中学3年生を対象に、英検（小学生は英検 Jr.）に係る受験料について1回分を全額補助
- ・県学力・学習状況調査や英検 IBA 等の結果から各学校が自校の集団の傾向をつかみ、その後の指導改善に生かす
- ・週1回の English Day の取組による英語に慣れ親しむ機会の設定

西原村

- ・中学2年生から中学3年生を対象に、英検に係る受験料について1回分を全額補助
- ・中3生徒は第2回、中2生徒は第3回を一齐に受験
- ・ALTと英語担当教員で2次面接の練習を個別に複数回実施

津奈木町

- ・中学1年生から中学3年生を対象に、英検に係る受験料について1回分を全額補助
- ・English Roomに英検問題集（5級～準2級）を常備し、必要な生徒に貸出し
- ・ALTと英語担当教員で2次面接のインタビュー練習等を個別に複数回実施

水上村

- ・小学1年生から中学3年生を対象に、英検（小学生は英検 Jr.）に係る受験料について3回分を全額補助（ただし、同じ級に係る補助は年度内2回までとする）
- ・小3から中3まで、フィリピン人講師とのオンライン英会話（年8回）を教育課程に位置付けて実施

五木村

- ・中学3年生を対象に、英検に係る受験料について3回分を全額補助
- ・年度当初に校内で英検受験の取組について全校生徒に説明を行い、積極的な受験を促す
- ・英検問題集（5級～2級）を学校で準備し、必要な生徒に貸出し

山江村

- ・中学1年生から中学3年生を対象に、英検に係る受験料について1回分を全額補助
- ・地域未来塾（年間20回）において、生徒の受験希望級ごとに、外部指導者による学習会を実施
- ・英検3級相当以上を条件にシンガポールへの海外語学研修を実施